

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和2年 7月～9月実績

令和2年 10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和2年7～9月期実績及び令和2年10～12月期見通し
7. 調査時点 令和2年9月1日（火）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

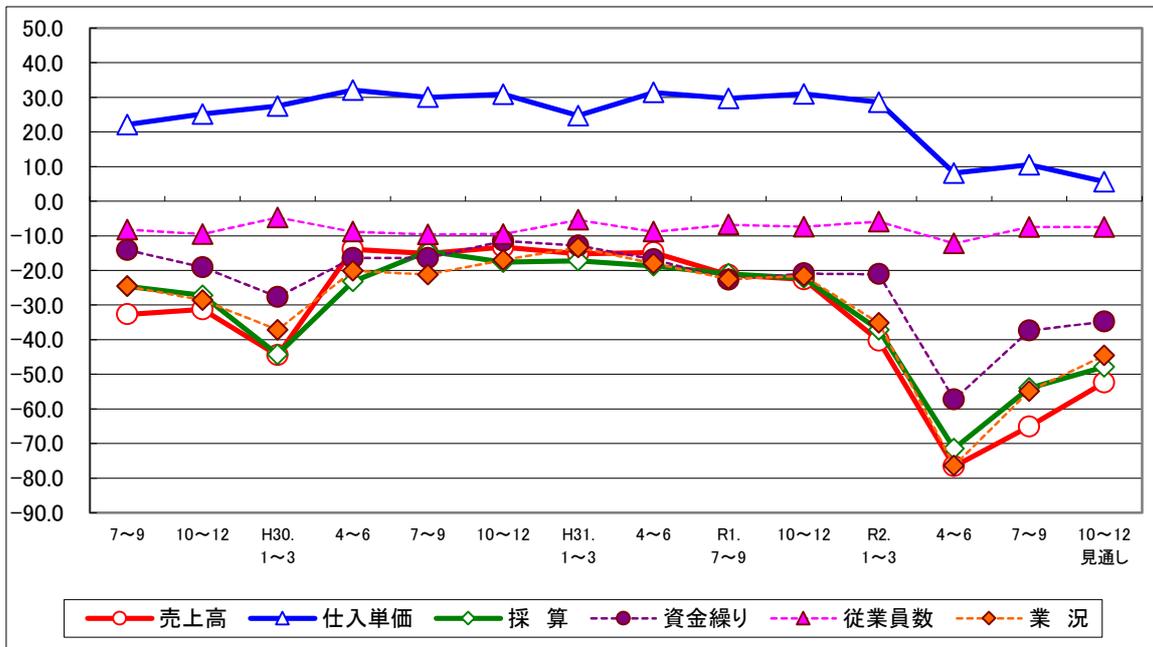
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

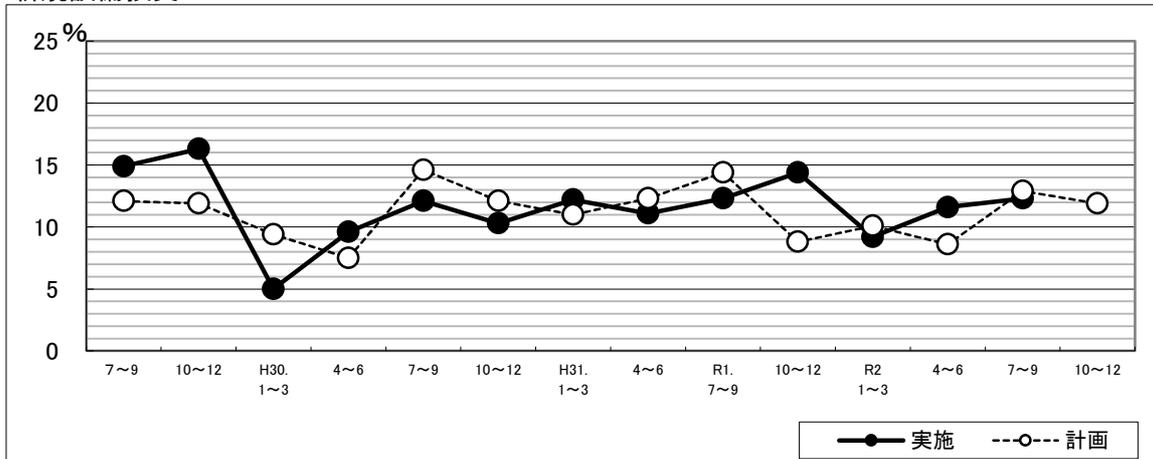
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

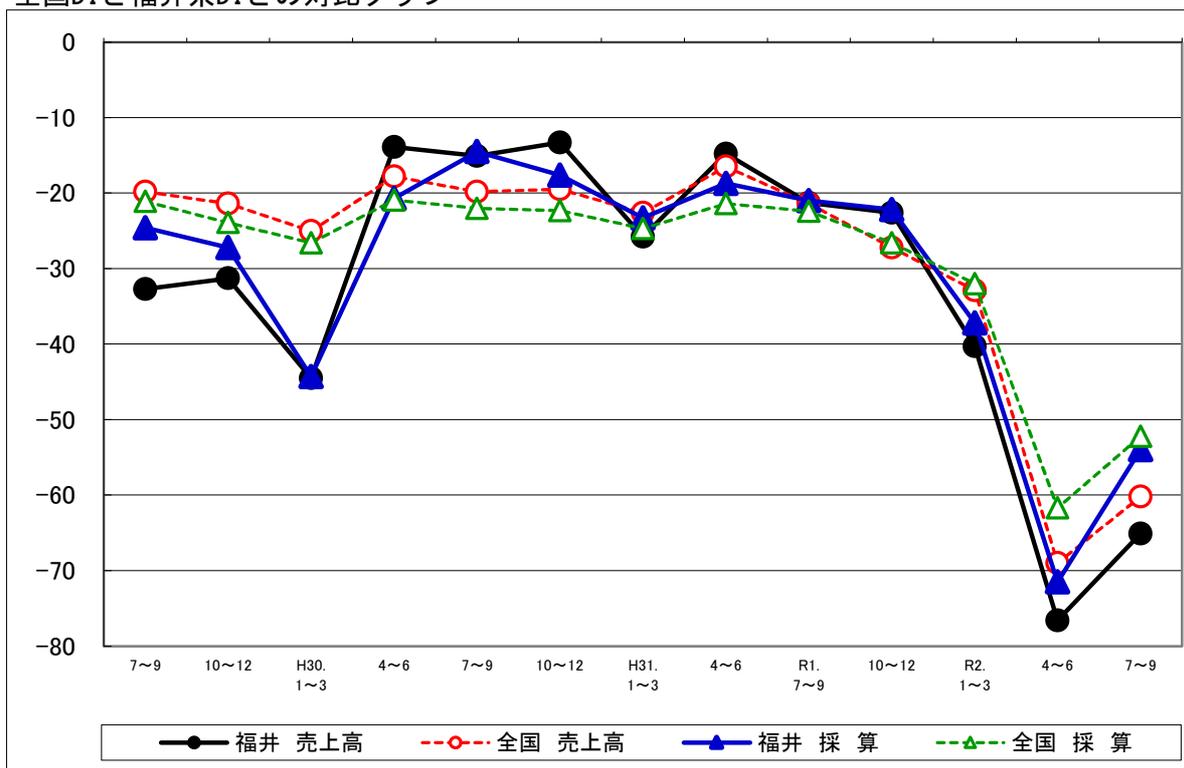
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6	▲ 13.9	32.1	▲ 23.2	▲ 16.4	▲ 8.8	▲ 20.1
7~9	▲ 15.1	30.0	▲ 14.5	▲ 16.4	▲ 9.6	▲ 21.2
10~12	▲ 13.3	30.9	▲ 17.6	▲ 11.5	▲ 9.5	▲ 17.0
H31.1~3	▲ 15.2	24.7	▲ 17.2	▲ 12.8	▲ 5.4	▲ 13.4
4~6	▲ 14.8	31.4	▲ 18.7	▲ 16.8	▲ 8.8	▲ 18.0
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12見通し	▲ 52.4	5.6	▲ 47.9	▲ 34.8	▲ 7.5	▲ 44.6



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R2年7-9月期の福井県経済を概観すると、需要面では、新型コロナウイルス感染症の影響により観光・レジャー、飲食関連業種などで厳しい状況が続いているものの、巣ごもり需要の発生から、ドラッグストア、食品スーパー、ホームセンター、家電量販店など一部の業種では堅調な売上を維持。供給面では、繊維、眼鏡枠などの地場産業で一部を除き弱い動きが続いているほか、化学は合成樹脂等の化学製品を中心に、プラスチックは包装資材中心に弱い動きとなっている。ただ、電子部品・デバイスがノートパソコンやタブレット端末向けで受注が増加するなど、一部で下げ止まり感もみられる。

こうした中、今期（R2年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち、仕入れ単価以外は改善の動きを示した。ただ、水面下で底を這う状況にあることは変わらない。ちなみに、項目ごとのDI値をみると、仕入れ単価（逆指数）が前期8.1から今期10.5へと悪化。改善項目では、売上高が前期▲76.6→今期▲65.1、採算が前期▲71.5→今期▲54.0、資金繰りが前期▲57.3→今期▲37.4、従業員数が前期▲12.2→今期▲7.5、業況が前期▲76.4→今期▲54.9となっている。今回の調査結果から、福井県内の中小企業ではコロナ禍ながら、全体として持ち直しの気配が出始めていることがうかがえる。また、先行き（R2年10-12月期）についても、5項目で改善予測、1項目で横這いとなっており、どん底ではあるが幾分の反転が期待できる結果となっている。

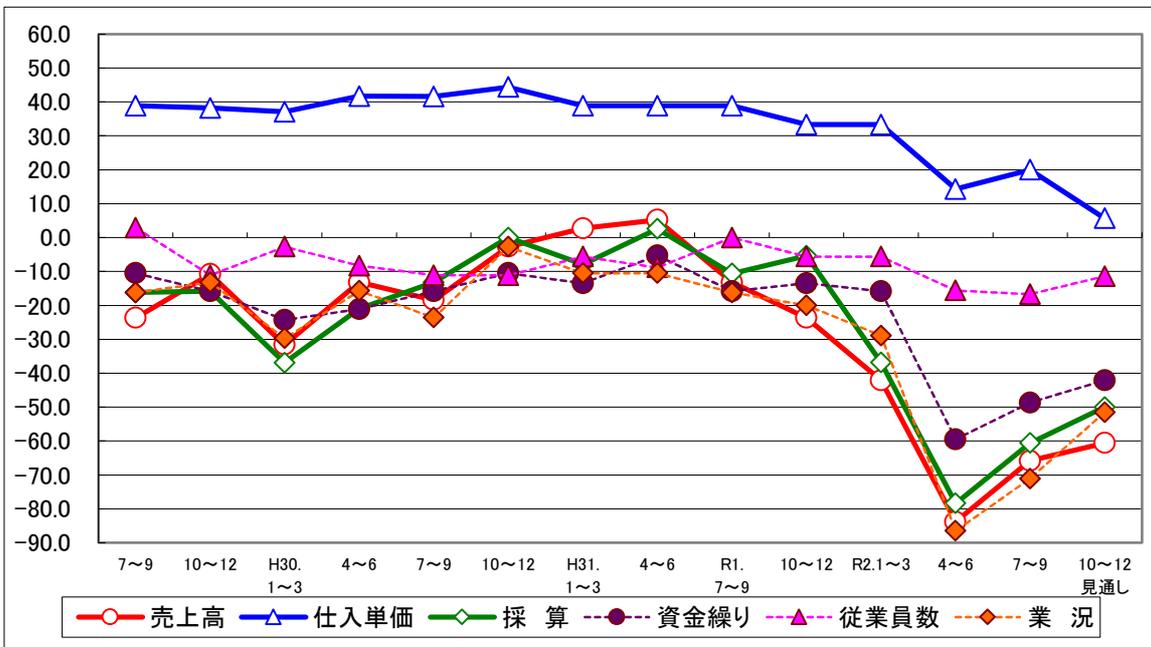
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、福井県、全国ともに前期に比べ改善しているが、両項目ともDI値は全国が福井県より上位にあり、福井県中小企業の厳しい状況がうかがえる。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイトの12.9%に対して実施した企業ウエイトが12.3%と、ほぼ計画通りとなった。また、先行き（R2年10-12月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが11.9%と、今期並みの投資マインドで推移することがうかがえる。

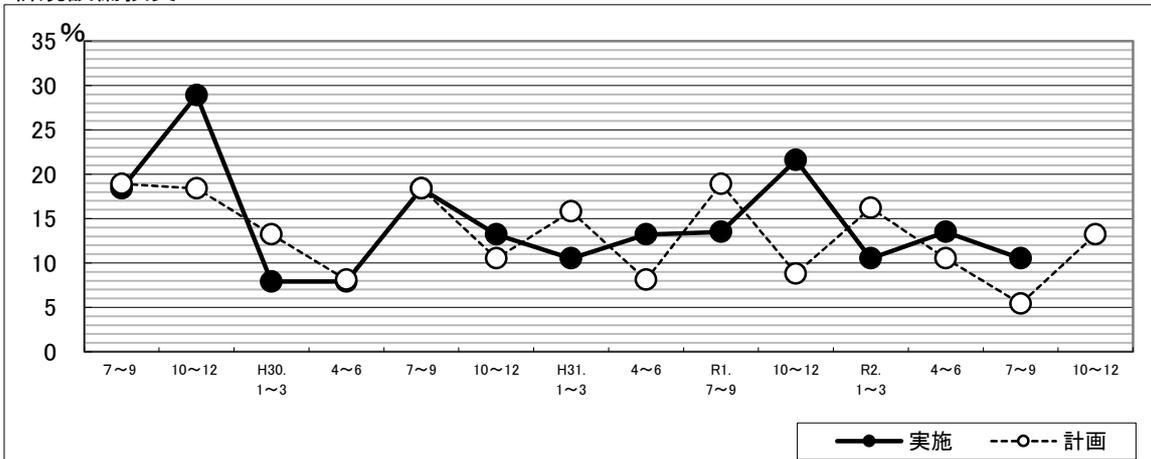
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

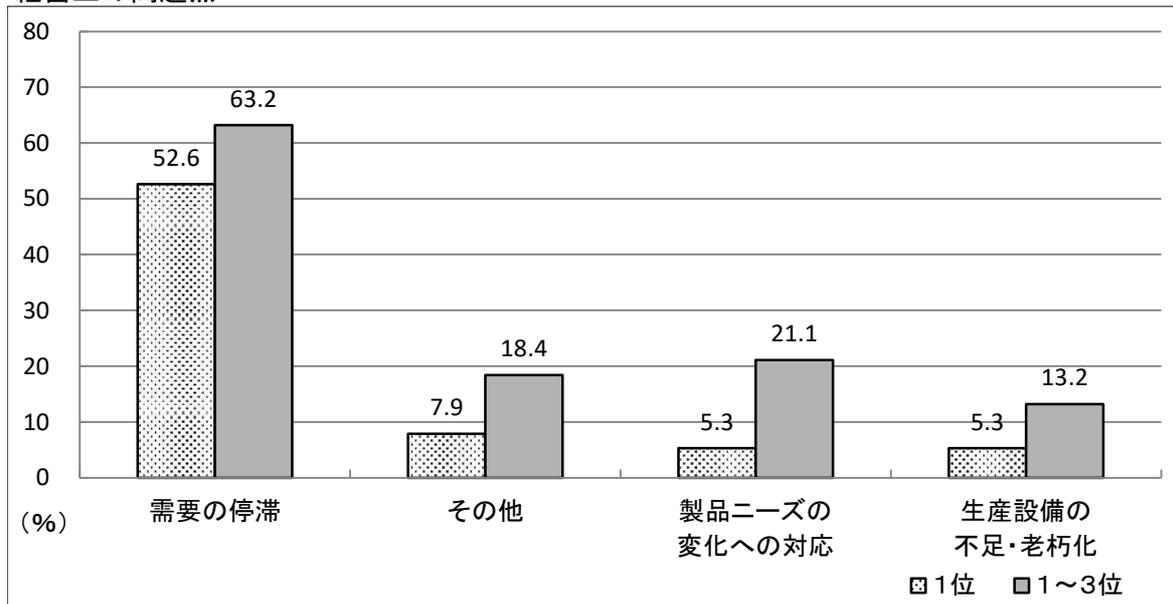
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6	▲ 13.2	41.7	▲ 21.0	▲ 21.1	▲ 8.3	▲ 15.7
7~9	▲ 18.4	41.6	▲ 13.2	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 23.6
10~12	▲ 2.7	44.4	0.0	▲ 10.5	▲ 11.1	▲ 2.7
H31.1~3	2.7	38.9	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 10.5
4~6	5.2	38.9	2.6	▲ 5.3	▲ 8.8	▲ 10.5
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12見通し	▲ 60.6	5.7	▲ 50.0	▲ 42.1	▲ 11.4	▲ 51.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・コロナ渦による影響で売上高の落ちこみが激しい。
- ・コロナにより受注が減少。一社との取引しかないと少しの減少が業況にダイレクトに現れる。通常に戻るにはまだ時間がかかりそうである。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、新型コロナウイルス感染症の影響から、繊維、眼鏡などの地場産業では、商談会の未開催、店舗閉鎖による需要の落ち込みから生産低下が恒常化しているほか、化学・プラスチック工業でも、低調な生産・出荷動向が続いている。ただ、機械工業では、世界的な自動車販売の持ち直しを背景に、大幅減少していた輸送用機械などに受注増加の兆しがみえ始めたほか、電子部品・デバイスなどもノートパソコンやタブレット端末向けで受注が増加するなど下げ止まりの動きが出始めている。

こうした中、今期（R2年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向を示している。各項目をみると、改善した項目は、売上高で前期▲83.8→今期▲65.8、採算が前期▲78.4→今期▲60.6、資金繰りか前期▲59.5→今期▲48.7、業況が前期▲86.5→今期▲71.1、悪化した項目は、仕入単価（逆指数）が前期14.3→今期20.0、従業員数が前期▲15.6→今期▲16.7となっている。また、先行き（R2年10-12月期）については、DI値6項目全てで改善予測が立てられている。

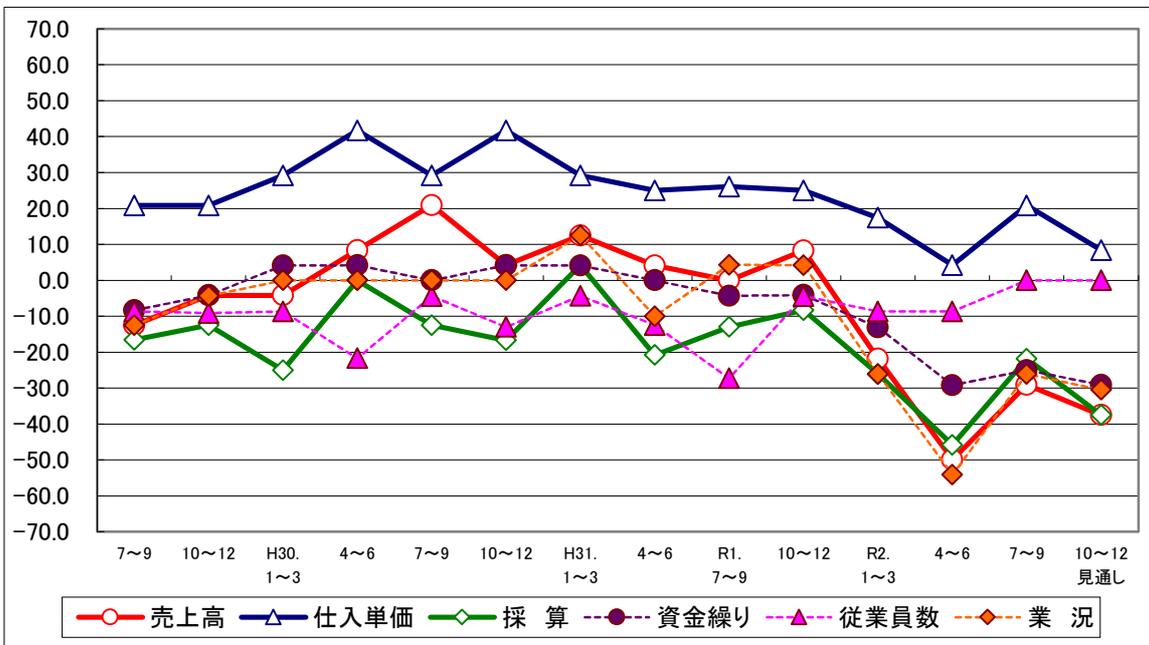
一方、新規設備投資の状況については、計画の5.4%に対し実施が10.5%と、実施が計画を上回った。また、先行き（R2年10-12月期）についても、何らかの投資を予定する企業が13.2%と、今期並みの投資活動が予想される。

最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「需要の停滞」で最も多く52.6%（1位～3位までに挙げた企業63.2%）を占めた。また、個別の見解としては、「コロナ渦による影響で売上高の落ちこみが激しい」、「通常に戻るにはまだ時間がかかりそう」といった悲観的な見解が多くみられた。

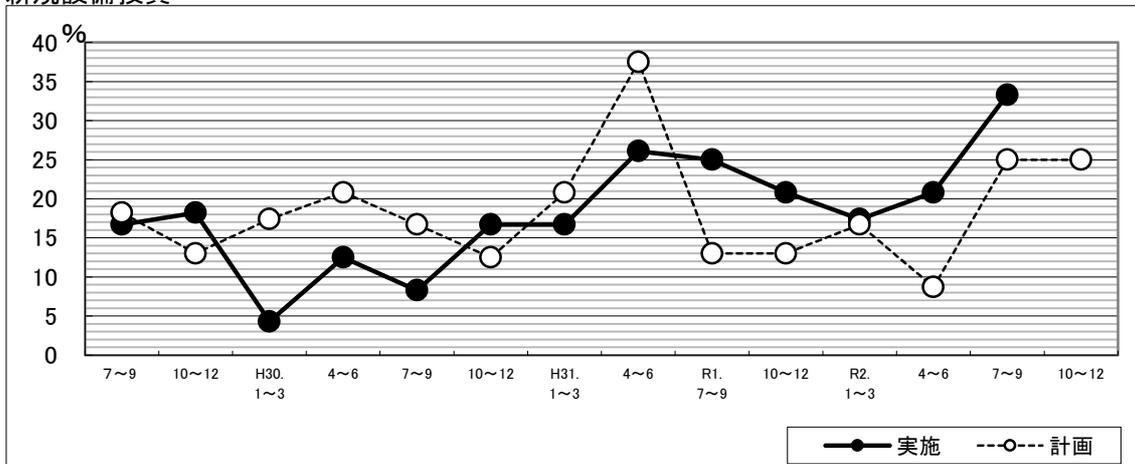
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

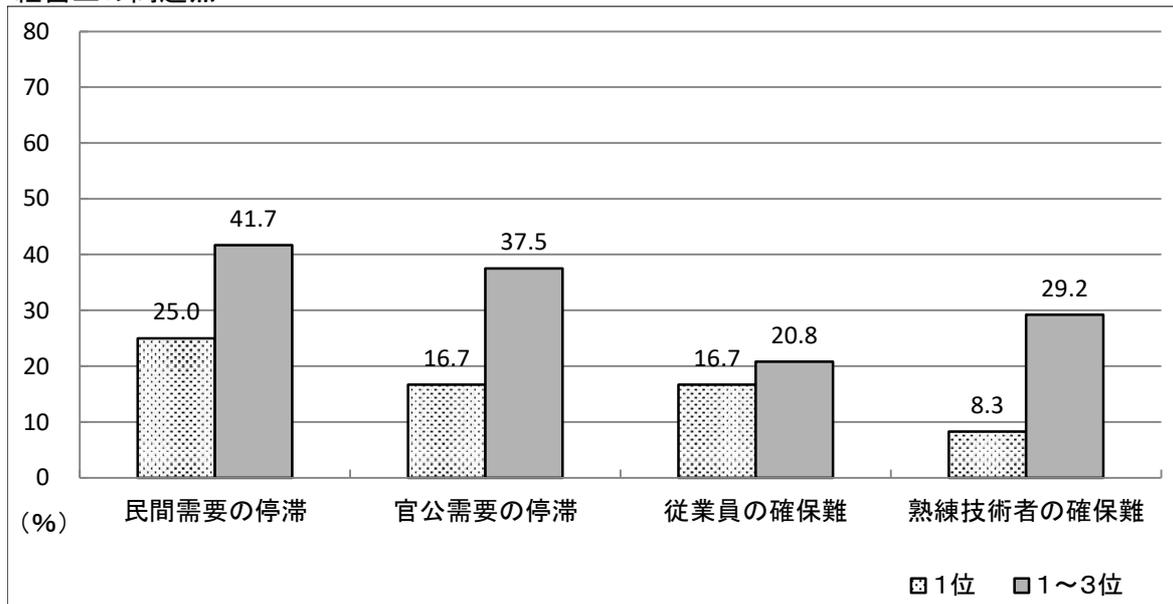
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6	8.4	41.7	0.0	4.2	▲ 21.7	0.0
7~9	20.9	29.2	▲ 12.5	0.0	▲ 4.4	0.0
10~12	4.2	41.7	▲ 16.7	4.2	▲ 13.0	0.0
H31.1~3	12.5	29.2	4.2	4.1	▲ 4.3	12.5
4~6	4.1	25.0	▲ 20.8	0.0	▲ 12.5	▲ 10.0
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12見通し	▲ 37.5	8.4	▲ 37.5	▲ 29.1	0.0	▲ 30.5



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・今のところ、新型コロナウイルスの影響は大きくないが、今後官公庁の発注減があるのではないかと心配している。
- ・助成や巣ごもり需要で小口の売上は堅調である。民間の設備投資に陰りが出てきており、中長期的には大きなマイナス要因であると思う。

建設業の景況

福井県内におけるR2年度（R2年7～R2年9月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,352億42百万円の前年同期比9.1%増、発注件数は同2,163件の同4.0%増となっている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等関連工事が613億37百万円の同12.2%増、市町村関連工事が303億38百万円の前年同期比13.2%増となっている。一方、住宅投資については、R2年4～R2年8月期までの5か月累計で、前年同期比25.7%減の1,608戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比26.1%減の1,029戸、貸家が同27.0%減の433戸となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち仕入れ単価（逆指数）で悪化傾向となった以外、5項目は改善傾向を示している。各項目をみると、売上高が前期▲49.9→今期▲29.1、仕入単価（逆指数）が前期4.2→今期20.8、採算が前期▲45.8→今期▲21.8、資金繰りが前期▲29.2→今期▲25.0、従業員数が前期▲8.7→今期0.0、業況が前期▲54.1→今期▲26.1となっている。この結果から、建設業は他の業種に比べ、コロナ禍でも比較的安定した業種であることがわかる。ただ、先行き（R2年10～12月期）については、売上高、採算、資金繰り、業況の4項目で悪化予測となっており、建設業での業況悪化が懸念される。

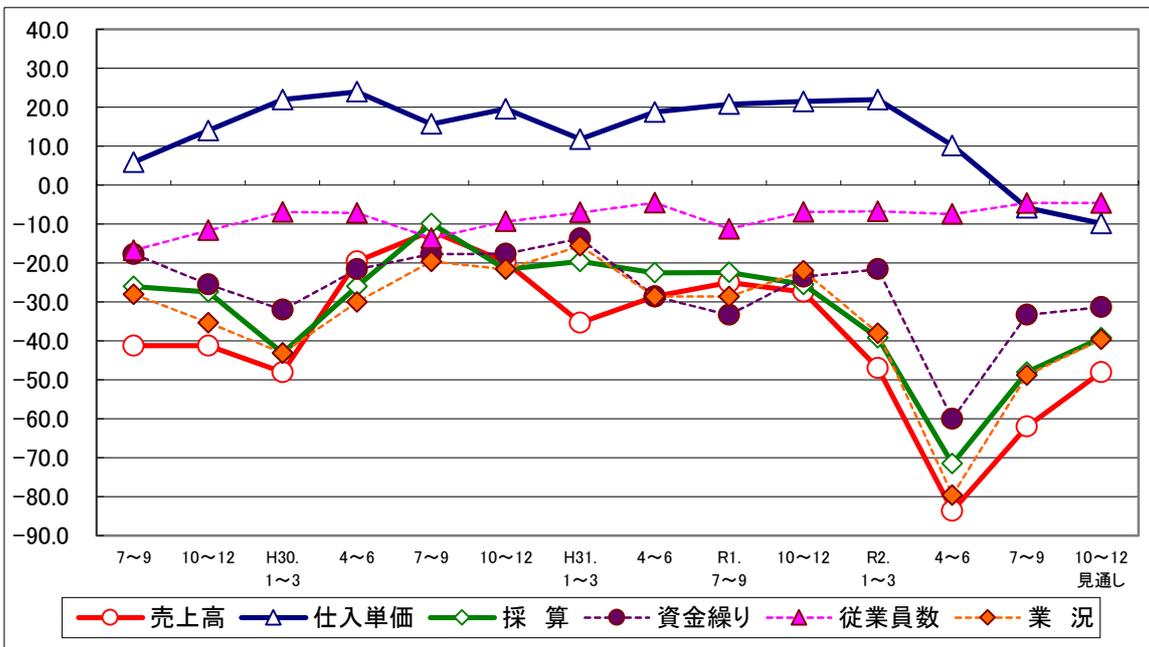
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業25.0%に対し実施した企業が33.3%と実施が計画を上回っている。先行き（R2年10～12月期）についても、何らかの投資計画を持つ企業が今期同様の25.0%となっており、投資意欲の持続が期待される。

最後に、経営上の問題点については、「民間需要の停滞」が1位に挙げた企業ウエイト25.0%、1位～3位までに挙げた企業41.7%を占め最多となった。また、「官公需要の停滞」への指摘も比較的多い（1位に挙げた企業16.7%、1位～3位に挙げた企業37.5%）。その他の見解としては、今後、官公需要の減少や民間設備投資のマイナス傾向について懸念する声が聞かれている。

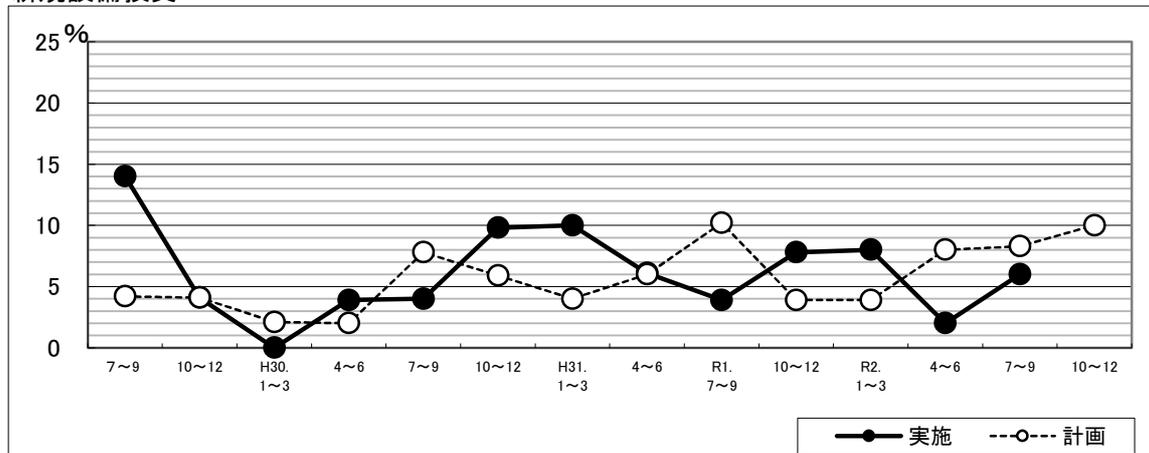
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

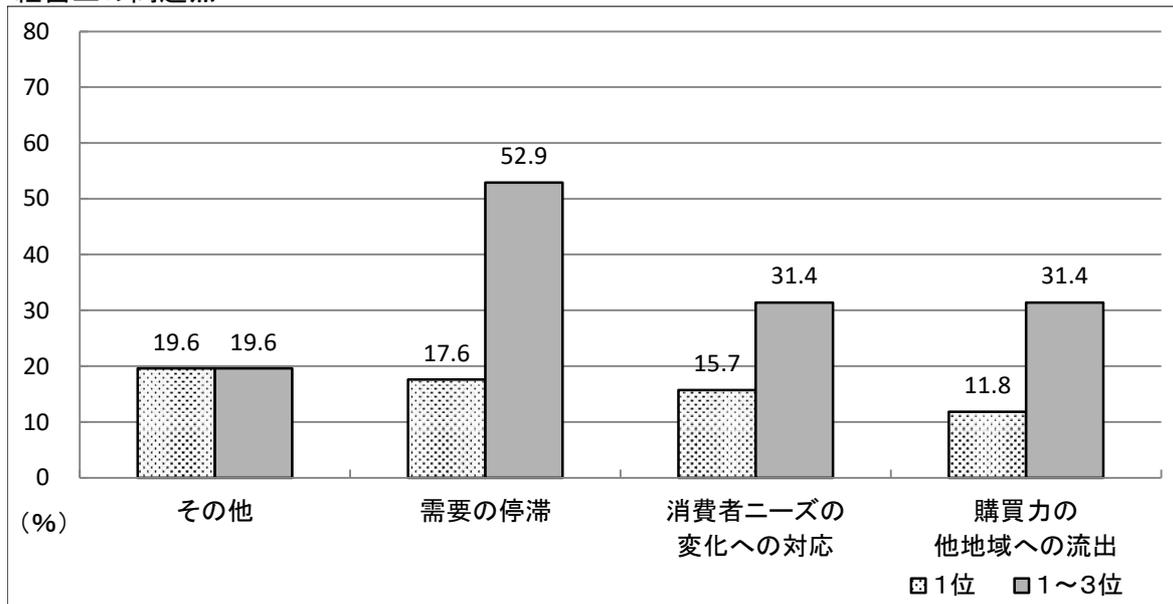
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6	▲ 19.6	24.0	▲ 26.0	▲ 21.6	▲ 7.1	▲ 30.0
7~9	▲ 11.8	15.7	▲ 9.8	▲ 17.7	▲ 13.6	▲ 19.6
10~12	▲ 19.7	19.6	▲ 21.6	▲ 17.6	▲ 9.3	▲ 21.6
H31.1~3	▲ 35.3	11.8	▲ 19.6	▲ 13.7	▲ 7.0	▲ 15.6
4~6	▲ 28.6	18.8	▲ 22.5	▲ 28.6	▲ 4.5	▲ 28.6
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12見通し	▲ 48.0	▲ 9.8	▲ 39.2	▲ 31.3	▲ 4.6	▲ 39.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・3月からの売上低迷が続きトップシーズンの8月も低調に経過した。コロナ感染に対する不安ムードが観光需要をおし下げており、観光分野以外の商品開発に取り組んでいるが回復は遅い。
- ・県外客含め客数が減り、バイトを減らして対応しているがこの先が不安である。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況が続いているが、巣ごもり需要の増加でドラッグストア、食品スーパー、ホームセンター、家電量販店が勢いをつけているほか、自動車販売も持つ直しつつある。ただ、アウトドア関連の主要観光地の入込や温泉客数は一部を除き厳しい展開のままであり、飲食店なども消費者のコロナ禍の影響による需要自粛を受け、厳しい展開を強いられている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目全てで改善傾向を示した。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲83.6→今期▲62.0、仕入単価（逆指数）が前期10.2→今期▲5.8、採算が前期▲71.5→今期▲48.0、資金繰りが前期▲60.0→今期▲33.3、従業員数が前期▲7.4→▲4.6、業況が前期▲79.6→今期▲48.8となっている。また、先行き（R2年10-12月期）についても、従業員数で横這いながら、その他5項目は改善予測が立てられている。

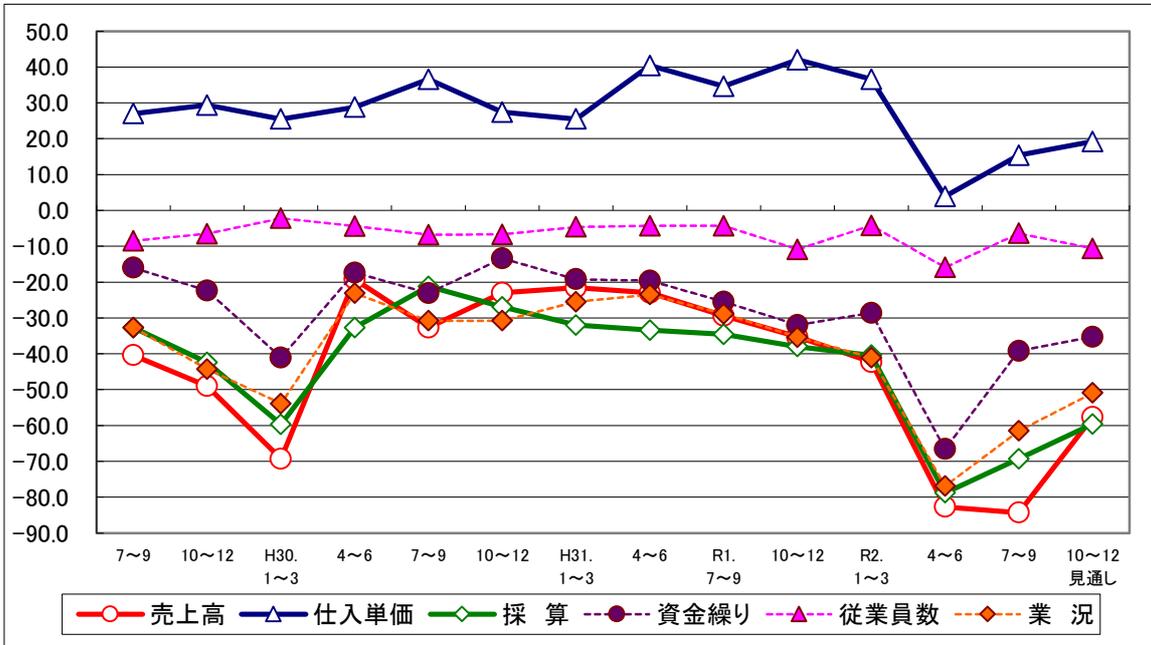
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の8.3%に対し実施は6.0%となり、実施が計画を下回っている。先行き（R2年10-12月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが10.0%と、今期の投資動向と大きな違いはみられず、概ねこのまま推移することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「その他」の項目を除いて、「需要の停滞」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト17.6%、1位～3位までに挙げた企業52.9%となった。「その他」に関連する見解としては、「コロナ感染に対する不安ムードが観光需要をおし下げており、観光分野以外の商品開発に取り組んでいるが回復は遅い」、「県外客含め客数が減り、バイトを減らして対応しているがこの先が不安である」など、悲観的な声が多く聞かれた。

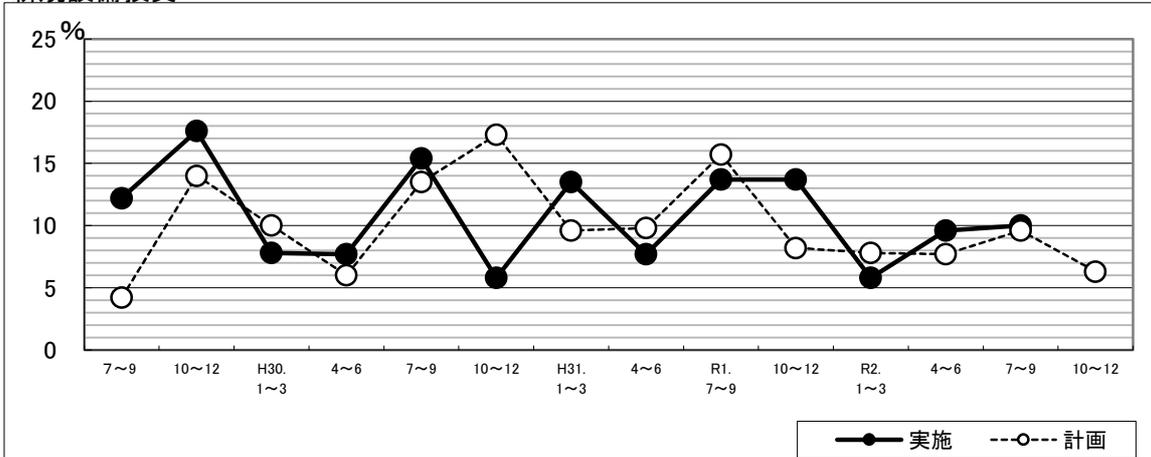
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

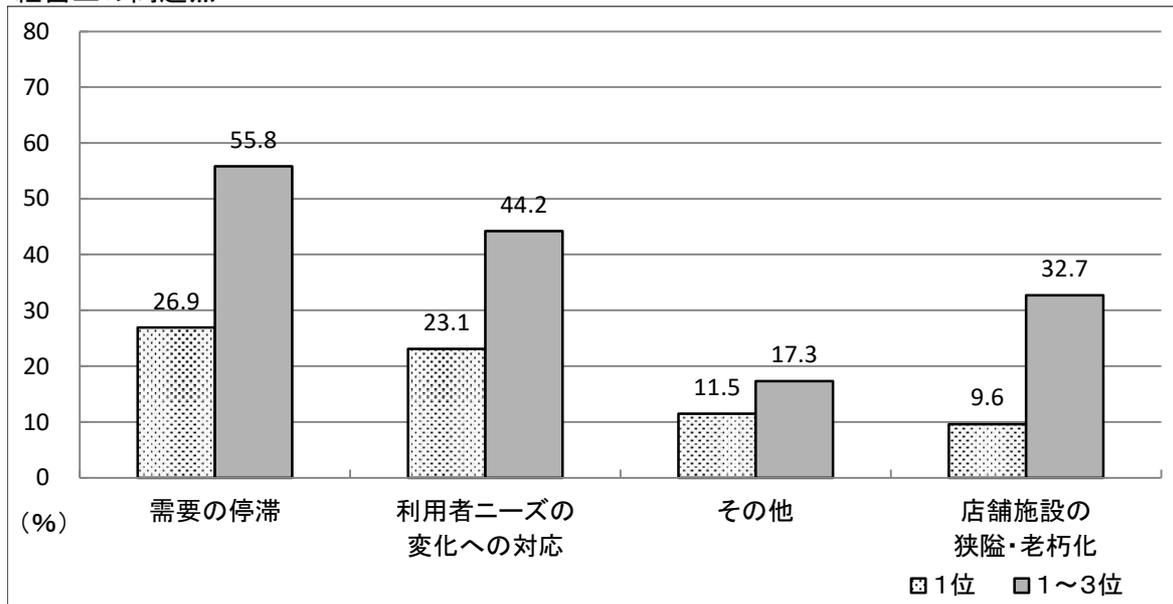
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6	▲ 19.2	28.8	▲ 32.7	▲ 17.4	▲ 4.4	▲ 23.1
7~9	▲ 32.7	36.6	▲ 21.2	▲ 23.1	▲ 6.8	▲ 30.8
10~12	▲ 23.0	27.4	▲ 26.9	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 30.8
H31.1~3	▲ 21.6	25.5	▲ 32.0	▲ 19.2	▲ 4.6	▲ 25.5
4~6	▲ 23.0	40.4	▲ 33.4	▲ 19.6	▲ 4.3	▲ 23.5
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12見通し	▲ 57.7	19.2	▲ 59.6	▲ 35.3	▲ 10.6	▲ 50.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・自粛生活が続くことにより、お客様の来店が少なくなっている。暑さとコロナで出かけることもなく、収束するまで我慢するしかない。
- ・新型コロナの感染拡大と連日の猛暑が人出を減らしている。地域的に高齢者が多いため感染者が減り涼しくならないと解決されない。今後も不安である。

サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるR2年7月のサービス関連産業売上高は27.6兆円で、前年同月比12.6%減となり、6か月連続の減少であった。減少した産業をみると、鉄道などを含む「運輸業、郵便業」が前年同月に比べ20.2%の減少で、10か月連続の減少。その他の生活関連サービスなどを含む「生活関連サービス業、娯楽業」も、前年同月に比べ24.8%の減少で、65か月連続の減少となっている。また、今回のコロナ禍でダメージが大きい飲食店などを含む「宿泊業、飲食サービス業」は、前年同月に比べ29.8%の大幅減少で、6か月連続の減少となっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中、売上高と仕入単価（逆指数）を除く4項目で改善が進む結果となっている。ただ、大幅な水面下であることは否定できない。項目別の指数を見ると、売上高が前期▲82.7→今期▲84.3、仕入単価（逆指数）が前期3.9→今期15.4、採算が前期▲78.8→今期▲69.3、資金繰りが前期▲66.6→今期▲39.2、従業員数が前期▲15.9→今期▲6.4、業況が前期▲76.9→今期▲61.5となっている。引き続き、福井県のサービス業は厳しい環境ながら、多様な支援策が奏功し幾分改善の兆しが出ていることもうかがえる。また、先行き（R2年10-12月期）については、今期同様、4項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画9.6%に対し実施が10.0%と、僅かながら実施が計画を上回っている。また、先行き（R2年10-12月期）については、何らかの投資を考える企業ウエイトが6.3%にとどまり、投資マインドは厳しい。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト26.9%、1位～3位までに挙げた企業55.8%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解としては、「自粛生活が続くことにより、お客様の来店が少なくなっている」など、悲観的な見解が数を占めている。

全国・福井景気動向 令和2年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 60.2	15.8	▲ 52.2	▲ 34.6	▲ 9.5	▲ 54.7
	製造業						
	DI値	▲ 64.9	18.2	▲ 58.5	▲ 38.5	▲ 11.5	▲ 61.5
	建設業						
	DI値	▲ 33.6	28.1	▲ 29.0	▲ 15.7	▲ 7.0	▲ 29.0
	小売業						
	DI値	▲ 61.2	8.2	▲ 51.6	▲ 34.7	▲ 5.0	▲ 56.1
	サービス業						
	DI値	▲ 67.8	15.2	▲ 59.0	▲ 40.4	▲ 12.8	▲ 60.7
福井	全体						
	DI値	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
	製造業						
	DI値	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
	建設業						
	DI値	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
	小売業						
	DI値	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
サービス業							
DI値	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

